

今回の取り組みのきっかけは、
『特定薬剤管理指導加算』の新設

今までもきちんと
服薬指導してきたつもり
だが…

今回の目的

危険性の高い薬に対する今までの
服薬管理・指導は問題なかったか？

その検証のため理解度テストを実施



方法Ⅰ：対象患者の選定

ハイリスク薬11領域の薬剤の中でも

今回我々は **まず** **糖尿病薬** **に限定**

なぜなら

- ・調剤する機会が最も多く、今後も増加傾向にある。
- ・低血糖状態がひどい場合、死に至る危険性がある。

【対象患者】

経口糖尿病薬服用患者の中で協力して頂けた14名の方
(平均年齢 75.1 歳、男性9名、女性5名)

【患者の服用薬剤】

スルホニル尿素類・速効型インスリン分泌促進薬
ビグアナイド類・ α -グルコシターゼ阻害薬
チアゾリジン誘導体・DPP-4阻害薬



方法Ⅱ：理解度テストの実施

服薬指導時に

簡単な
テストを実施

薬局におけるハイリスク薬の
薬学的管理指導に関する
業務ガイドラインをもとに作成

テスト内容

- I (1) 糖尿病治療では低血糖が起こることがあります。
低血糖という言葉を知っていますか？
(2) 低血糖の症状にはどんな症状がありますか？
(3) 低血糖はどんな時に起こりやすいですか？
- II (1) あなたが現在服用している糖尿病のお薬は？
(2) そのお薬はいつ服用していますか？
(3) お薬を服用し忘れてしまった時は？
- III (1) シックデイという言葉を知っていますか？
(2) シックデイ時にはどうしたらよいでしょう？

低血糖と
対処法

処方内容
服用時間
服用忘れと
対処法

シックデイと
対処法

方法Ⅲ：新指導箋による指導

手順

- ①初回到プレテスト
- ↓
- ②指導箋を用いた指導（1回目）
- ↓
- ③指導箋を用いた指導（2回目）
- ↓
- ④初回と同じ内容のテスト

※指導回数は今までの経験から2回必要。
 （約2ヶ月間の間に2回実施）
 ※指導箋の内容は混乱を招かないよう
 処方医と相談した。

糖尿病について確認してみましょう

① (1) 糖尿病治療では低血糖が起こることがあります。低血糖という言葉を知っていますか？

(2) 低血糖の症状にはどんな症状がありますか？
 冷や汗 手や足の震え 脱力感 顔面蒼白 動悸
 激しい空腹感 めまい 生眩

(3) 低血糖はどんな時に起こりやすいですか？
 過度の飲酒 不十分な食事
 薬の服用時間や量が適正でない

(4) 低血糖が起こった時にはどうしますか？
 砂糖 砂糖水 ブドウ糖 その他

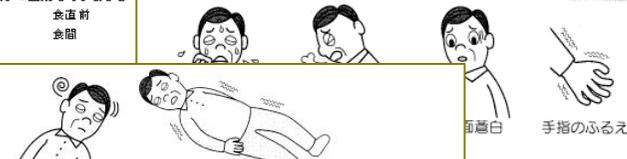
② (1) あなたが現在服用している糖尿病薬は、
 (2) そのお薬はいつ服用していますか？
 起床時 食前 食後 食前 食間

(3) お薬を服用する際に、
 飲み忘れ 飲みすぎ 飲み直し 飲みすぎ 飲み直し 飲みすぎ 飲み直し

③ (1) Sick Day
 (2) では、

糖尿病について確認してみましょう

★ **低血糖では、こんな症状があらわれます**
 低血糖を感じたら絶対に我慢しないで、主治医の指導どおりに糖分をとって、安静にしてください。おさまらない場合は直ちに主治医に連絡してください。



傾眠 けいれん・昏睡
 顔面蒼白 手指のふるえ

★ **シックデイとは・・・**
 糖尿病の人が発熱や下痢、嘔吐などで体調を崩した状態、または食欲不振のため食事ができない状態の事を言います。

★ **シックデイ・ルール**

- ① 早めに受診して、適切な治療を受けましょう。
- ② 体を温かくして、安静にしましょう。
- ③ 水分を十分に補給しましょう。
- ④ 食欲があれば消化の良いものを摂るようにし、食事が摂れないときは、スポーツドリンクを冷やさずに飲みましょう。
- ⑤ 自己チェック（体温、血糖、尿糖など）は頻回に行いましょう。
- ⑥ 経口血糖降下薬は迷ったらとりあえず服用せず、なるべく早く主治医に連絡して相談しましょう。
- ⑦ インスリン注射は勝手に中止しないで、なるべく早く主治医に連絡して相談しましょう。

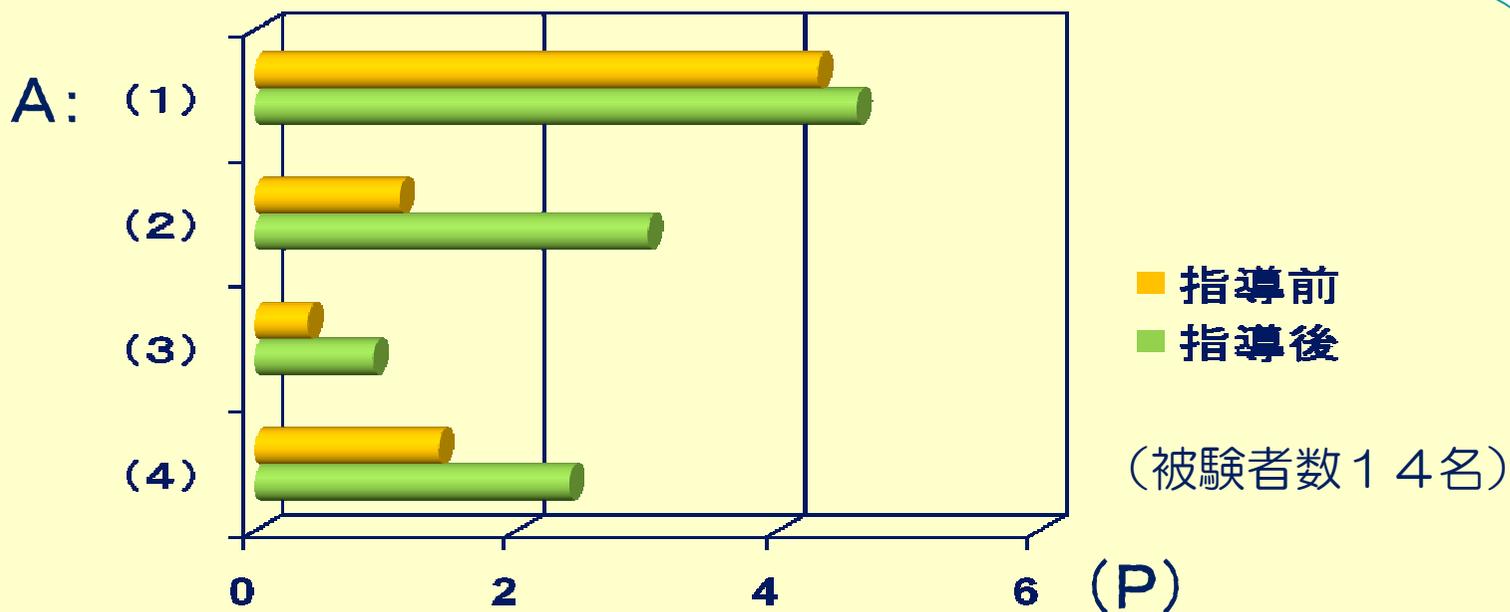
方法V：新指導方法の評価

*新指導法の評価は、ポイント化（P）し、14名の平均値で検証した。

- I (1) 糖尿病治療では低血糖が起こることがあります。
低血糖という言葉を知っていますか？ 知っている…5 P 知らない…0 P
- (2) 低血糖の症状にはどんな症状がありますか？ 考えられる症状1つにつき…2 P
- (3) 低血糖はどんな時に起こりやすいですか？ 考えられる状態1つにつき…2 P
- (4) 低血糖が起こった時にはどうしますか？ 正しい対処法1つにつき…2 P
- II (1) あなたが現在服用している糖尿病のお薬は？
すべて正解…5 P 1部のみ正解…2 P 不正解…0 P
- (2) そのお薬はいつ服用していますか？（それぞれの薬について）
服薬時間 すべて正解…5 P 1部のみ正解…2 P 不正解…0 P
- (3) お薬を服用し忘れてしまった時は？（それぞれの薬について）
服用忘れ時の対処 すべて正解…5 P 1部のみ正解…2 P 不正解…0 P
- III (1) シックデイという言葉を知っていますか？ 知っている…5 P 知らない…0 P
- (2) シックデイ時にはどうしたらよいでしょう？ 対処法1つにつき…2 P

結果 I

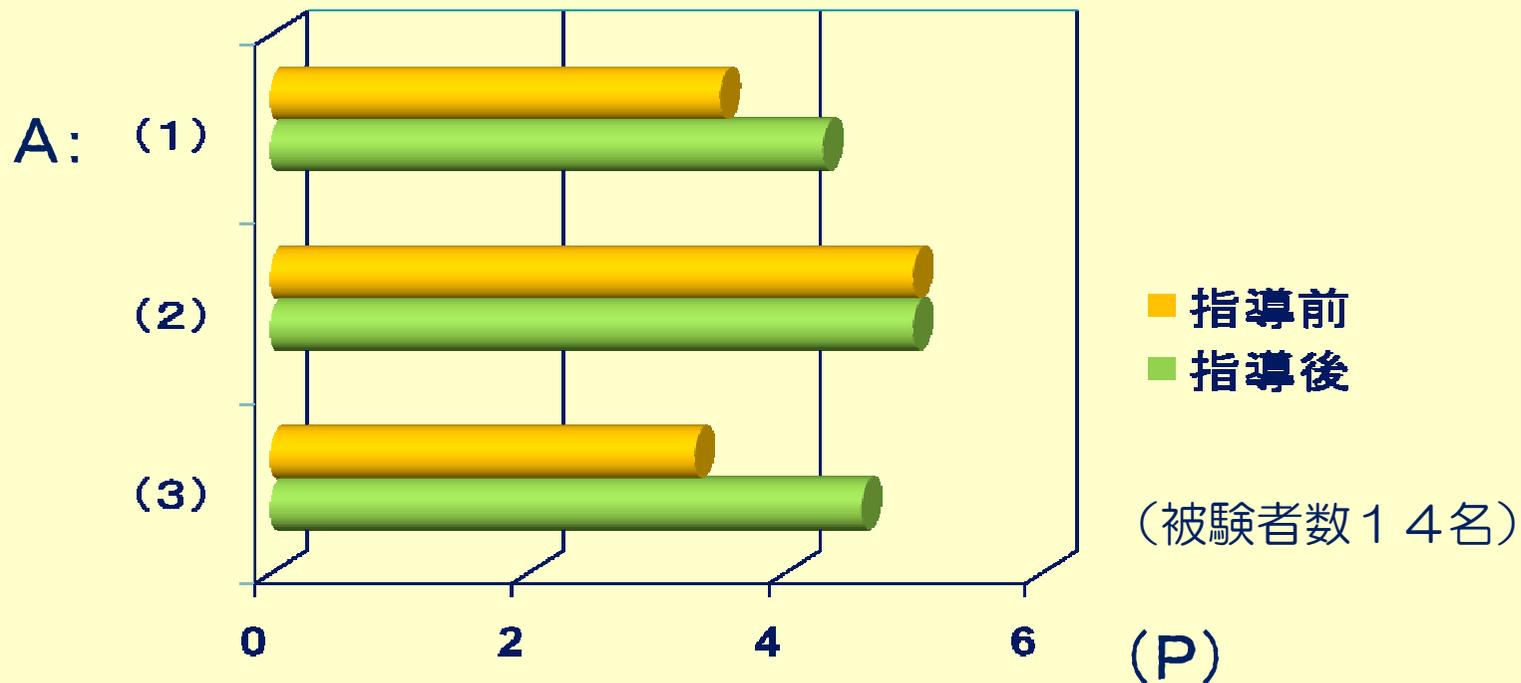
- Q: (1) 糖尿病治療では低血糖が起こることがあります。
低血糖という言葉を知っていますか？
(2) 低血糖の症状にはどんな症状がありますか？
(3) 低血糖はどんな時に起こりやすいですか？
(4) 低血糖が起こった時にはどうしますか？



- * 指導前は、低血糖という言葉は知っていても、実際に低血糖症状を経験した患者が少なく、具体的な症状を理解している人は少なかった。指導後は具体的な症状の理解度が増した。
- * 低血糖が起こりやすい状況の理解度はあまり変化がなかった。
- * 低血糖の対処方法は、服用薬剤により理解度に差があった。

結果Ⅱ

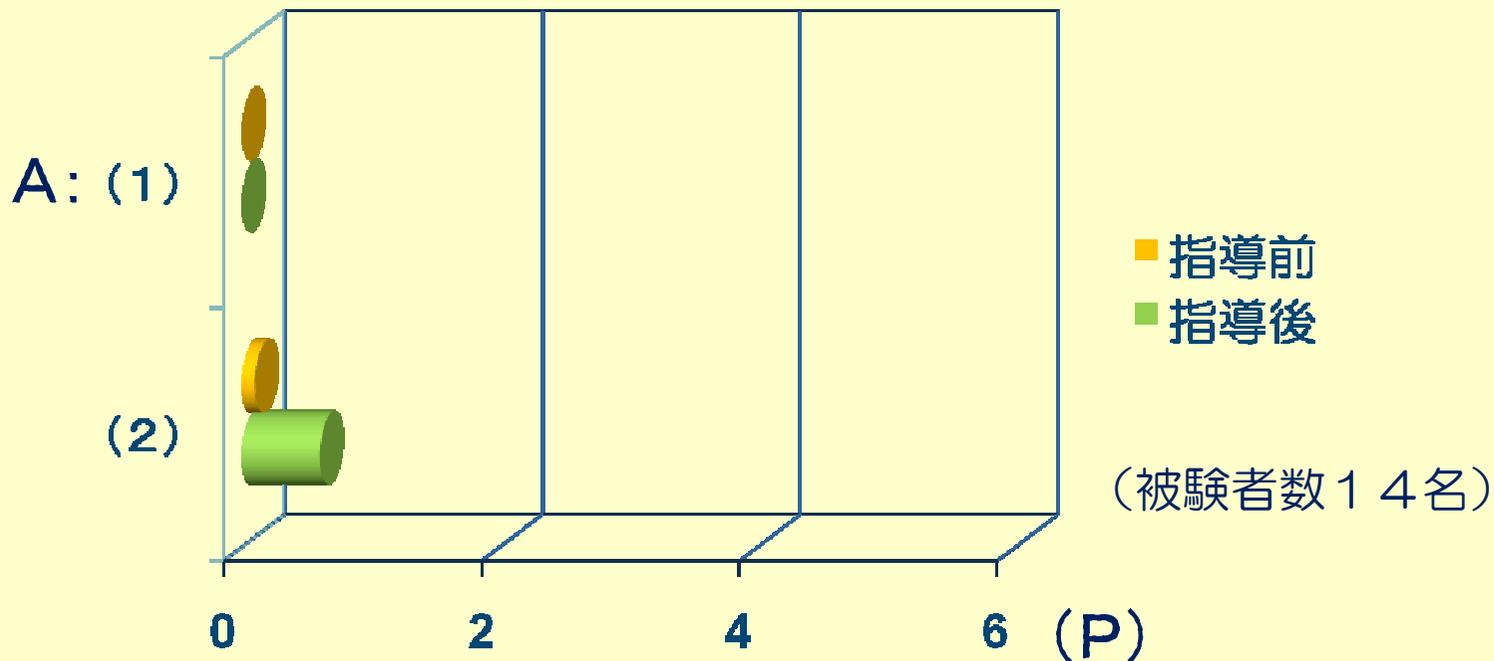
- Q：(1) あなたが現在服用している糖尿病のお薬は？
(2) そのお薬はいつ服用していますか？
(3) お薬を服用し忘れてしまった時は？



- *これまでの繰り返しの服薬指導の結果、対象患者が高齢者であるにもかかわらず糖尿病薬の認識度は高かった。
- *用法・用量は薬剤の写真入りで薬袋に記載してあるので、理解度は高かった。
- *指導後、服用忘れ時の対処方法の理解度が増した。

結果Ⅲ

Q: (1) シックデイという言葉を知っていますか?
(2) シックデイ時にはどうしたらよいでしょう?



- * ガイドラインや患者向け冊子に記載されている「シックデイ」という言葉は患者に理解されていなかった。指導後も、対象患者が高齢患者だったためか、受け入れられなかった。
- * シックデイの対処方法では、対処方法を理解するというより「何かあれば医者に行く」という行動パターンが浮き彫りになった。

患者さんの声 ①

低血糖の
症状…
？

何かあれば
医者に行く
から…

お薬を飲ん
でいれば大
丈夫でしょ
う…？

別に変わっ
たことはな
いから、薬
だけもらい
に来てるよ

耳が遠いから、
先生の話はよく
わからなくて…

検査の結果？どうだったかな…？

問題点

治療に対して消極的
関心が薄い…



患者さんの声 ②

フラフラしたら
ご飯食べればい
いんでしょ？

薬は本人に任せて
あるから…
(高齢患者の家族)

いろいろ説明
されても…
難しいから…

今年の夏は暑くて…、汗をかくから
ポカリスエットばかり飲んでたよ。

食直前の薬って飲
み忘れちゃうんだ
よ…食後じゃ駄目
かな？

問題点

服薬指導や、その重
要性があまり理解さ
れていない…

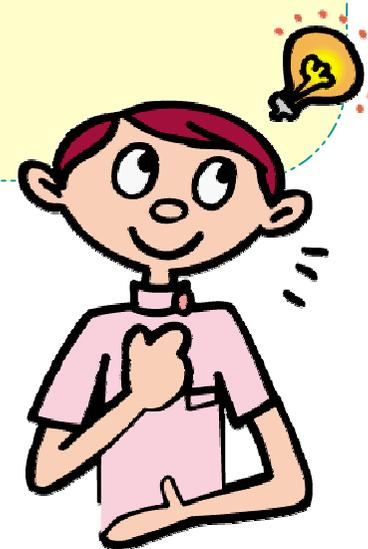


患者さん及びその家族の薬識や病識を高め 積極的に治療に参加させる為には…？

1. 症例検討会などで医師と情報を共有し、協力して服薬指導のマニュアルを作り、指導を統一化。
2. 糖尿病手帳を確認しながら、患者さんに検査値を意識させる。
3. 患者に理解して欲しい内容は、いつも目にする薬袋を利用する。
4. 患者さんを褒める。
5. 定期的な確認テストの実施。
6. 病気になる仕組みなどをわかりやすい言葉で説明。
7. 運動療法や食事療法の支援。

具体的な服薬管理指導

患者さんやその家族の薬識や病識UP！
治療への積極的な参加へ…





今回は「特定薬剤管理指導加算」の新設をきっかけとして、ハイリスク薬に対する今までの服薬管理指導に問題がなかったかを検証した。

その結果、特に高齢者においては、**口頭での指導や配布した患者向けの冊子、指導箋の内容よりも、毎日目に触れる薬袋に記載されている内容の方をよく理解していることが分かった。**また、**服薬管理指導に対しては患者と薬剤師の間に温度差があり、その理解度にはかなりの個人差があった。**さらに、**全体的には治療に対して医師任せになっていることが浮き彫りになった。**我々はこの結果を謙虚に受け止め、特にハイリスク薬の薬学的管理指導を充実させる為に、前述した方法を速やかに実践していきたい。